

私が暮らす地域の
「かぐ」 宅横に樹齢
80年を超す大山桜(オ
ヤマザクラ)がある。
4月中旬、この桜を楽
しむ花見会に参加し
た。

ファーリー風

宮田守男
(現場)からの
⑯

吉沢豪俊さんの著書「森上区の歴史」では、「かぐ」は、昭和9年に初代塩島千代吉さんが創業。食料・衣料・小間物・学用品ら、たいていの物が間に合うような大変大きな雑貨屋で、二代目吉蔵さんまで続いた。今も、大きな建物は当時の面影を残している。3本の大きな大山桜は、裏庭にあり、花見は私有地敷地でしかできないため特定の者が参加する事ができない貴重な花見会だ。今年は、「早すぎる春」を象徴するよう例年より2週間以上早い開催だが、日差しが、春の温かさを充分に堪能させ花見会に参加した。

吉沢豪俊さんの著書「森上区の歴史」では、「かぐ」は、昭和9年に初代塩島千代吉さんが創業。食料・衣料・小間物・学用品ら、たいていの物が間に合

うよくな大変大きな雑貨屋で、二代目吉蔵さんまで続いた。今も、大きな建物は当時の面影を残している。3本の大きな大山桜は、裏庭にあり、花見は私有地敷地でしかできないため特定の者が参加する事ができない貴重な花見会だ。今年は、「早すぎる春」を象徴するよう例年より2週間以上早い開催だが、日差しが、春の温かさを充分に堪能させ花見会に参加した。

吉沢豪俊さんの著書「森上区の歴史」では、「かぐ」は、昭和9年に初代塩島千代吉さんが創業。食料・衣料・小間物・学用品ら、たいていの物が間に合

うよくな大変大きな雑貨屋で、二代目吉蔵さんまで続いた。今も、大きな建物は当時の面影を残している。3本の大きな大山桜は、裏庭にあり、花見は私有地敷地でしかできないため特定の者が参加する事ができない貴重な花見会だ。今年は、「早すぎる春」を象徴するよう例年より2週間以上早い開催だが、日差しが、春の温かさを充分に堪能させ花見会に参加した。

吉沢豪俊さんの著書「森上区の歴史」では、「かぐ」は、昭和9年に初代塩島千代吉さんが創業。食料・衣料・小間物・学用品ら、たいていの物が間に合

地域を楽しむ事を考えてみませんか

ら付け替えられ、現在は静かな住宅街。しかし、地区内には、歴史を感じる場所も多くある事も事実だ。大山桜は、山桜に比べて花や葉が大きく、花色が淡紅色で華やかさもあり

ら付け替えられ、現在は静かな住宅街。しかし、地区内には、歴史を感じる場所も多くある事も事実だ。大山桜は、山桜に比べて花や葉が大きく、花色が淡紅色で華やかさもあり

切だが、有りのままの故郷も見つめなくてはならない。それが歴史の営みだからだ。形あるものは、いずれその面影を失っていくのが歴史の事実だ。しかし、だからと言つて何もないで良いはずは

げてくれる。時折舞い落ちる花びらや隣接する当時の面影を忍ばせる大きな建物は、何時も何気なく見つめている風景とは異なり格別なものだ。

ある車メーカーの宣伝に使われた「幸せが

有している…」

私たちが、求めてい

る風情があるようだ。

創り込まれた故郷も大

い。その連続が、大き

い。地域に大切な光を

与える事だと信じた

い。その連続が、大き

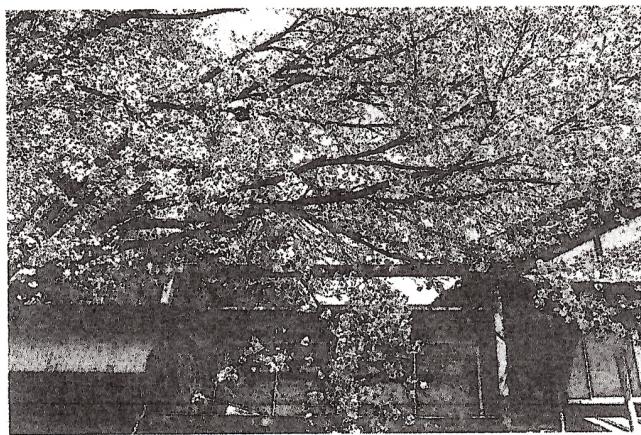
い。地域にある歴史

材を見つめ直す大切さ

を知るべきだ。その乗

剤になつてほしいと願つている。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



集落内に生き続ける大山桜、先人が託した地域への夢はと考えてしまう